

令和5年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価 (3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	新しい時代に必要となる資質・能力の育成を目指し、特性や地域・学校の実情等を踏まえながら、カリキュラム・マネジメントに取り組む。	①SSHとしての特色ある教育課程の編成及び運用の検討を重ねるとともに、生徒の自己実現に向けた履修指導を行う。 ②主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業実践に向けて取組の充実に努める。 ③新学習指導要領に基づく教育課程について、適切な運用方法を検討し、確実に実施する。	①SSHとしての本校独自の教育課程の編成及び生徒の履修希望科目に沿った講座の編成や時間割の作成に努める。 ②校内及び公開研究授業等を通じ、生徒の主体的かつ論理的思考力の育成を目指した授業を実践する。 ③探究活動を中核としたサイエンスプログラムに取り組むことにより科学的探究力、協働力、創造力の育成に取り組む。 ④生徒の履修希望科目に沿った講座を編成し、時間割を作成する。	①SSHとしてふさわしい教育課程となっているか。 ②「生徒による授業評価」において、課題解決に関する評価項目(3と6)の回答のうち、50%以上が「(項目4)かなり当てはまる」であったか。 ③生徒が主体的に探究活動に取り組み、成果を表現できたか。 ④生徒の履修希望科目に沿った講座を編成し、時間割を作成できたか。	①探究活動を中心とした教育課程の編成を行うために、各教科で授業研究を行った。 ②12月実施の第2回目「生徒による授業評価」において、評価項目3及び6の「(項目4)かなり当てはまる」の回答はそれぞれ50.4、47.0%であった。 ③生徒の履修希望科目に対応した時間割を編成できた。また、新学習指導要領に基づく教育課程について、適切な運用方法を検討した。	①今後は週単位数(現行33単位)や1コマ当たりの時間数(通常65分)の見直しなど大幅な改変も視野に入れて検討していく。 ②値が例年よりも若干低く、目標値を下回ったものもあるが、今後も探究活動を中心とした学習を展開できるよう、教員の指導・助言におけるスキルアップを目指す。 ③SSHとしての本校独自の教育課程の運用を実現するために、理数探究の担当教員及び時間割編成のシミュレーションを進める。	①「SSH」としての新たな取組みに挑戦しつつ、来年度から指定を受ける「学力向上進学重点校」としての役割も維持できるよう期待する。	③生徒の履修希望科目に対応した時間割を編成できた。また、理数探究の3クラス同時展開での運用を編成した。時間割編成の制約が大きい中、持続的に理数探究を運用できるかが課題である。	③生徒の進路希望を踏まえた上で、SSHとしての独自の教育課程を実現するため、履修希望段階での選択科目の組合せを検討する。
2	(幼児・児童・)生徒指導・支援	①学校行事、部活動、委員会活動を更に充実させ、その活動を通じて、人間形成を図り、全人教育を実践する。 ②生徒一人ひとりの個を尊重した支援体制をさらに充実させる。	①学校行事、部活動、委員会活動における課題解決を目指し、課題解決能力やコミュニケーション能力の育成を図る。 ②教育相談全体支援会議と職員が協力して支援に必要な生徒の対応にあたる。	①行事や部活動等で職員の助言等のもと、生徒が課題を見つけ、話し合い等を通じて、新たな工夫等も考えながらその解決を目指すことができたか。 ②職員が本校の支援体制を理解し、支援が必要な生徒の情報を共有し適切な支援を行うことができたか。 ③中間検討会資料や新たな教育課題に関する資料を作成・配付し、支援が必要な生徒の情報共有や教員の資質向上に資する。	①行事や部活動等で生徒が課題を見つけ、話し合い等を通じて、新たな工夫等も考えながらその解決を目指すことができたか。 ②職員が本校の支援体制を理解し、支援が必要な生徒の情報を共有し適切な支援を行うことができたか。 ③中間検討会や新たな教育課題に関する資料を作成・配付し、支援が必要な生徒の情報共有や教員の資質向上に資することができたか。	①文化祭、体育祭においては、生徒が職員と密にコミュニケーションをとりつつ、主体的に企画、運営を行うことができた。 ②SCやSSWとの連携も含め、チームとなって生徒を支援することができた。	①後期の行事においても生徒が主体となって運営できるよう、生徒への助言指導を密に行っていく。 ②支援を必要とする生徒に対し、より良い支援を行えるようにする。	①今後も生徒の成長を促せるような学校行事の運営を期待する。部活動も多くが関係する。期待する。 ②支援を必要としている生徒に、よりよい支援を行える体制を今後整えてほしい。	①学校行事では、教員、生徒間のコミュニケーションを密にとりつつ、生徒の主体的な行事運営によって実施できた。 ②教育相談に関しては、SCやSSWと連携して、本校の支援体制を整え、生徒を支援することができた。	①学校行事を運営する生徒は毎年交代するが、運営方法の引き継ぎがうまくなされるように支援し、引き続き教員とのコミュニケーションを密にとることを意識して、生徒の成長を促せるような学校行事にする。 部活動に関しては、インストラクターなど外部指導者も活用して、活動を支援する。 ②SC,SSWを活用し、よりよい解決方法を探れるような体制づくりに努める。

	視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月6日実施)	総合評価(3月25日実施)	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
3	進路指導・支援	生徒が進路希望の実現を達成できるよう、目的意識を持たせて学習意欲を高め、自主的に人生設計ができる資質を育む等、進路指導の充実を目ざす。	① 学習指導と連携し、生徒の進路希望を共有して教科における学習活動やキャリア学習の機会を提供し、生徒を支援する体制を整える。 ② 補習・講習及び実力試験を効果的に実施するとともに、その分析結果を生徒と共有することで生徒の進路意識を高め、進路実績を伸ばす。	①生徒の進路希望の実現に有益な学習の機会を提供してきめ細かなサポートを行い、進路や学習に対する意識を高める。 ②実力試験等の結果から年次ごとの特徴を分析し、適した働きかけを行い、実力を伸ばす支援を行う。	①キャリア行事や模擬試験等に、生徒が目的を理解して積極的に取り組んでいるか。 ② 難関大学への合格者数、進学者数等の進路実績を高めるための具体的な取組を実践できたか。	①生徒の進路希望の実現に向け、細やかなサポートを提供し、進路と学習に対する意識を高めた。進路説明会、先輩大学生との進路学習会、インターンシップ、模擬試験など、様々な活動を実施した。 ②実力試験などの結果をもとに、年次ごとの特徴を分析し、適切なアプローチを採り、実力を伸ばす支援を行なった。生徒には進路説明会で分析報告を共有し、職員には会議で分析結果を伝え、生徒の強みや弱点、伸ばすべき点などを共有した。	①キャリア行事や模擬試験など、目的を理解し積極的に取り組むことができた。今後も目的を理解し、積極的に取り組めるようにサポートに力を注ぐ。  ②難関大学への合格者数や進学者数については、今後の結果を注視する。	①職員の他に同窓会等に協力してもらいながら、引き続き生徒の学習の場を多く提供してほしい。  ②難関校の合格者増と人間形成の両方の実現を目指してほしい。	①生徒の進路に関する希望を調べ、その情報を共有することができた。さらに、キャリアに関する行事を通して、生徒が将来の目標を達成するための学習機会を提供し、支援を実施した。 ②模擬試験のデータを分析し、前年度や他校との比較資料を作成、教職員間で情報共有することができた。	①キャリア行事への取組を生徒が理解しやすい環境を整え、模擬試験や入学試験の分析結果などの情報を、進路説明会や個別の面談を通じて生徒に提供し、支援していく。 ②年次ごとの学力特性をしっかりと分析し、外部リソースの活用や学校内での取組を、適切で柔軟な方法で進めていく。
4	地域等との協働	地域との協働を推進し、地域から信頼される学校づくりを進める。	①生徒一人ひとりの幅広い学力の育成のため地域等の教育力を活用する。  ②地域に開かれ、地域と共にある学校を目指し、学校の教育活動の情報提供や学校運営協議会の促進等を行う。	①地域と連携し防災訓練・研修会等を実施する。 ①地域貢献活動等を計画して積極的に参加・実施する。 ②学校説明会・学校カミングデー・県西地区合同説明会等を開催、参加して地域から信頼される学校づくりを推進する。 ②ホームページを充実させ、日々の教育活動を誰が見ても分かりやすく提供する。	①防災避難訓練実施での職員間の連携及び生徒が適切に身を守る防災活動を実施したか。 ①地域貢献活動(年3回)を実施したか。 ②学校説明会・学校カミングデーの開催及び県西地区合同説明会等に参加して目的を達成できたか。 ②地域に開かれ地域と共にある学校を指して学校の教育活動の情報提供や学校運営協議会の促進等を行えたか。	①防災避難訓練(年2回)は予定通り実施して準備している。 第1回避難訓練 4月25日実施 第2回避難訓練 12月22日実施 ①地域貢献活動は、予定通り実施し準備している。 地域貢献活動(1年)9月19日実施 地域貢献活動(3年)10月17日実施 地域貢献活動(2年)11月14日実施 ②校内で企画・立案した学校説明会・県西地区合同説明会等は予定通り開催できた。また学校カミングデー等は準備を進めている。 ②ホームページの更新のタイミングを見直し、日々の教育活動に関する情報提供をタイムリーに行うことができた。	①防災避難訓練実施での職員間の連携及び生徒が適切に身を守る防災活動を実施できた。 ①今年度の地域貢献活動は予定通り実施し準備できている。しかし今年度、海岸清掃等の計画を検討したが実施できなかったため来年度再度検討して実現に努める。  ②今年度の県西地区合同説明会等は予定通り全て開催できた。本校で行う学校説明会では参加者のアンケートを活かして実施する。 ②各グループとの連携を密にして、配信する情報の収集に努めるとともに、より迅速に更新できるようなシステムを検討する。	②校内外の学校行事等をコロナ禍の前のように戻して実施していくことが必要である。先日行われた卒業式は伝統を重んじた式でよかった。 ②引き続き、小田原高校の様子や今後の取組み等を地域等に広く発信していく必要がある。	①生徒の命を守る防災対策の一つ防災避難訓練は予定通り実施できた。しかし地域と連携した活動が出来なかったため今後実現したい。 ①地域貢献活動はコロナ禍前の活動に戻り予定通り実施できた。清掃活動の範囲を地域と連携して広い活動を目指す。 ②企画した学校説明会(3回)、学校カミングデーの開催は予定通り実施した。また県西地区の合同説明会等も実施した。 ②校内の学校儀式(入学式・卒業式)も従来の形態で実施できた。	①本校は二課程のため定時制との連携をさらに進め防災対策を強化に努めたい。  ①学校運営協議会の機会を活用して自治会と協働して地域連携活動を進めていきたい。  ②SSH 課題研究連携として地元企業の協力を得て来年度も探究活動の推進に努める。
5	学校管理 学校運営	①生徒の目標を達成するため、学校内外の人的・物的資源を活用し、教職員の人格的資源・専門性の向上を図る。 ②教職員全体で事故防止に取り組む。	①地域や多様な他者との連携・協働体制及びインフォーマル教育に係る環境と支援体制を整え、SSH事業を推進する。 ②職員一人ひとりの意識改革及び組織的に業務を遂行することで、事故・不祥事防止の徹底を図る。	①学校運営協議会を活用するとともに外部関連機関との協働・支援体制を構築する。 ②マニュアルに基づいて組織的な成績処理体制を整える。 ②「入学者選抜」について、実施要項に更なる工夫を加えるとともに研修会を実施し事故・不祥事防止の徹底を図る。	①SSHの取組として、外部との連携による協働体制及び支援体制が構築できたか。 ②「成績処理」マニュアルに基づいて、組織的に成績処理を行ったか。 ②「入学者選抜」の実施要項に基づいて業務を遂行し事故・不祥事を未然に防ぐことができたか。	①学校運営協議会を活用するとともに外部関連機関と連携し、SSH事業を推進した。 ②成績点検日を設定し、マニュアルに基づいて、組織的に成績処理を行った。 ②入学者選抜では出願システム変更に伴い、実施要項を改定し、事故・不祥事防止を徹底した。	①課題研究の1領域に1企業が対応できる体制がとれるように、企業連携バンクの取組を充実させる。 ②組織的な成績処理のノウハウの構築及び不祥事防止の徹底を図っていく。 ②更に円滑な入学者選抜業務遂行に向けて、実施要項の改善及び職員の意識改革を進めていく。	①学校運営協議会を活用するとともに地域及び同窓会等の人的・資源をフルに活用することで更に教育活動が活性化すると考える。また、今年度から配置されたSSWを活用し地域関連機関との協働による生徒支援体制の確立を期待する。 ②今後も、職員一人ひとりの意識向上を図り事故・不祥事防止を徹底してほしい。	①SSHについては地域関連機関との連携が進み、次のステップへの準備が整った。 ①地域住民とコミュニケーションを図りながら地域の教育資源を更に活用していく必要がある。 ②成績処理等について、点検日を設けるなど、組織的な点検体制を整え、事故・不祥事防止の徹底を図った。	①SSHについては、企業連携バンクの充実を図り、生徒の課題研究体制を整える。 ①地域との連携・協働による取組を1つずつ実現していく。 ②職員一人ひとりの意識改革に継続的に取り組むとともに、職場環境や校内マニュアル等を更に改善し、事故・不祥事防止の取組を徹底する。

